



TITLE:

事變下に於ける漁村對策

AUTHOR(S):

蜷川, 虎三

CITATION:

蜷川, 虎三. 事變下に於ける漁村對策. 經濟論叢 1939, 48(2): 348-365

ISSUE DATE:

1939-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131211>

RIGHT:

經濟學叢論 第十四卷 第二號
昭和十四年六月二十一日第三刷發行
大正十四年六月二十一日第三刷發行

京都市大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷(第二號)

昭和十四年二月

論叢

貨幣的利子論の吟味……………文學博士 高田保馬

中小都市における商店街の構成……………經濟學博士 谷口吉彦

時論

最近に於ける通貨收縮性の遲緩……………經濟學博士 小島昌太郎

事變下に於ける漁村對策……………經濟學博士 蜷川虎三

研究

豫想の構造の分析……………經濟學士 青山秀夫

莫大小業の生産形態……………經濟學士 堀江英一

カルブンの利子と自然法……………經濟學士 澤崎堅造

經營分析における比較の意義と形態……………經濟學士 岡部利良

說苑

支那の村落……………經濟學士 宮本又次

財政統計の地方比較……………經濟學博士 汐見三郎

附錄

彙報

外國雜誌論題

(禁轉載)

事變下に於ける漁村對策

蜷 川 虎 三

日支事變が勃發してこゝに三年目の時を迎へるに至つたが、今日のところ、この事變がいつの日終結するか何人も豫斷を許さぬ所である。併し終結の日は豫斷し得ぬにしてもたゞかういふことだけは極めて明瞭である。即ち事變の終結の日はこの聖戰の目的の達成の日であり、國民は如何なる辛苦に耐へてもその總力をあげてこれが貫徹に邁進せねばならぬといふことである。今更こゝに事新しく言ふまでもなく、事變解決の目標とする所は、日滿支一體經濟を土臺とする東亞の新體制の確立に在り、従つて、かゝる地盤が開拓されその基礎が確立されぬ限り戰鬪は何處までも繼續されねばならぬし、占領地の事後工作も聖戰の目的の方向に於て極力進められねばならぬことは極めて明瞭である。

幸にも忠勇なる皇軍の奮鬪の結果、戰鬪の勝利は着々として占められ、主要なる陣地と都市の陷落占領といふ戰果は一億の國民の感謝する所であるが、併し戰爭として見れば、戰爭目的が十分に達成されぬ限り完全なる勝利といふことが出來ず、占領地域に於ける事後工作の完成こそ容易な事業ではない。而もこの事業たるや、單に事業自體が容易でないのみならず、國際的な妨害條件も多く加はるものと覺悟しなければならぬ。現にかゝる方

面に於て種々なる世界的勢力が露骨に現れて來たことは何人も認むる所であらう。勿論かうした力が蔣政權の背後に或はこれをロボットとして存在し策動してゐたことは否定し得ぬ事實であるが、併しこれが從來は兎に角潜在的な形態をとらうとしたにも拘らず今日に至つては最早耐り兼ねてその姿を露呈して來てゐる。かうなると戰爭はいよいよ本格的に長期戰的となり、經濟戰は益々深刻に且つ世界的な相貌を呈して來るのは必然である。従つて現在の戰鬪力を充實することは勿論のこと、今後の情勢に對處する軍備の充實強化の重要缺くべからざることともまた言を俟たぬところであるが、これらは何れも經濟力が十分であることによつてのみ達せられることであり、而も對支諸工作並に日滿支一體經濟確立のために要する經濟力も蓋し莫大なるものが要求される譯で、かかる所要の經濟力を涵養し保持し、如何なる經濟戰の展開を見ようとも斷乎として進撃し得る力が國民經濟の中に養はれてゐなければならぬ。

今日行はるゝ所の經濟統制はまさにかゝる意味に於て行はるゝ經濟關係に於ける統制に他ならぬが、その限りに於て、統制を行ふに際しよくこの統制目的を達成し得る方法手段を講ずる必要があると共に、被統制者である國民もよくその目的とする所を理解し、經濟統制の實施を可能且つ容易ならしめると同時にこれが効果を十分ならしめるために協力することが重要である。ところが現在のところでは、經濟統制が全面的に而も組織的に行はれる所まで整備されず、緊急的なもの殊に資金及び物資に就いて部分的な統制より進められる結果、假令その直接的な目的は達せられるにしても、その過程に於て種々な障害を含むと共に、經濟の全關係に於ては或種の矛盾と衝突とは免れぬ所である。勿論これは、國民精神總動員に於て國民の理解と協力とを積極的ならしめ、他方經

濟警察により取締ると共に社會政策の強化により補整する方法をとつてはゐるが、併し未だなほ理論的にも實際的にも不十分であることは否定出來ぬ所であらう。たゞ、經濟統制それ自體の目的よりして、今日の國民經濟力を高めることに在つて決して低めようとするものでないことだけは確かで、少くとも國民經濟全體として見る限りに於ては、自然的資源にせよ、生産設備にせよ、また勞働力にしても最も能率よく利用することが主旨であり、資本の全體としての増殖と蓄積の増大を期することもまた疑ない。従つて、現實事態に對應して經濟統制の實施に曲折はあつてもこの根本的方向に變化はない筈であり、またあつてはならない。ゆゑに同時に、かゝる方向と矛盾し衝突するやうな個人的な經濟力の利用乃至は利潤の獲得は絶対に否定さるべきことは當然である。一部の統制嫌忌者の統制拒否論は經濟統制の本質に對する無理解か然らずんば個人的利害の打算によるものであつて、時局の認識不足を譏られても仕方がない。

併し一方に於て、特に中小生産者に於て、經濟統制に對應し適應し得る組織を整備してゐない點に於て十分に同情に價する點もないとはいへないであらう。工業組合、産業組合、漁業組合等々の各種組合が、各個産業に於ける協同組合たる機能をもつと同時に、經濟統制に於てこれら中小生産者のための完全なる統制適應機關として機能し得るならば、統制はよりよく圓滑に且つ業者を害せず効果的に及び得る筈である。假令如何に合理的に統制が仕組まれたところで、これを受ける方にそれだけの備へがなければ、統制が徹底しないばかりでなく、業者を害せざる統制が反つて業者を害し而も思はざる障害を來たすといふことも必ずしも豫想されぬことではない。勿論これは統制が本來豫想する所ではないが、統制の目的を實現する機構組織の不備より結果する所で、こ

れを以て統制を責めることは出来ないが、その準備を缺く點は何處までも缺陷といはなければならぬ。

かゝる意味に於て、經濟統制を行ふに當つては統制計畫を理論的且つ實際的に細心に樹立するを要すると共に被統制者側に、統制に關する深き認識を得せしめ、積極的に協力する精神を涵養すると同時に、各個の生産者がこの統制の下に經濟活動の可能なる機構と組織とを與へることが重要である。述べるまでもなく長期經濟戰を戦ひ抜き、而も次に來るべきものに備へるがためには、全面的にして組織的な強力な經濟統制が必要であり、また今日の事態に於てはその必然なることを思はせるが、それには、單に經濟統制の主旨ばかりでなく、その本來の目的とする効果が百パーセントであることを期さねばならぬ。その意味に於て、一方、經濟統制の方法手段とその計畫性に就き檢討を要すると共に、他方、被統制の産業並に生産者とその經濟關係の實情を明らかにし、今日の經濟情勢とそれに處する諸政策の及ぼす所を究めて、國民經濟力の増進と銃後國民生活の安定をはかることは最も緊要のことといはねばならぬ。

殊に長期經濟戰に於て、その限界線を成すものは國民食糧の線であり、この國民食糧の線を確保し、現實との間に開きを大にし餘裕をもたせるならば、恐らくその開き即ち餘裕が長期戰の可能の範圍であらう。よつて、國民食糧を益々豊富に且つ低廉に供給し得る生産的地盤の確立と配給機構の組織化とは不斷に努力せらるべき問題である。勿論これを擔當するのは農山漁村であるが、果して今日の農山漁村に何處までその能力があるか、若しその能力に於て不十分だとすれば、可及的に速にその能力を得せしめなければならぬ。

周知の如く、農山漁村は昭和五年の世界恐慌の痛手から未だ抜け切らず、またいはゆる農山漁村の經濟更生事

業も未だその効果を見るに至らずしてこの事變に際會したもので、十分な社會的・經濟的抵抗力を備へてゐるといふことは出来ない。而も今日の時局に於て、必要な勞働力は専ら農山漁村より補給され吸収されるので、果してこれで農林漁業に於ける生産力を落さず而も更にこれを高めて行くことが出来るかどうか、また農山漁村民の生活を安定せしめて行くことが出来るかどうか、甚だ問題である。併し今日の問題は、單に出来るかどうか疑つてゐる餘裕はなく、農山漁村民の生活を安定せしめると同時に、先に述べた農山漁村の今日の使命をどうしても達成實現せしめなければならないのである。従つて、從來のやうな行き方で出来ないとするれば出来るやうな方法手段を講じなければならぬし、また從來の行き方で出来る筈のものが出来てゐないとすればその障害原因を除去することに努めなければならぬ。

この意味に於ては、今日の農山漁村對策は從來の、少くとも事變以前のそれと異なるものといはなければならぬ。從來の農山漁村對策に於ては、その目的の實現可能性は別問題として、兎に角、農山漁村のための農林漁業の振興策であり、農山漁村民の生活安定策にとゞまつたのであるが、今日の農山漁村對策は、長期經濟戰下に於ける農山漁村の擔當部面を完全に遂行せしむるためにとる方策であり、またその限りに於ける生活安定策であるといふ意味に於て大なる相違をもつてゐる。従つて、從來の如く、方策を樹立しその實行の可否、效果の有無を問題にしないで済むといふやうなものでなく、どうしてもこれだけは行はねばならぬし、目標とする結果を實現しなければならぬといふ性質のものである。その限りに於て、それは單なる農林漁業のみの問題ではなく、また農山漁村民だけのための問題でもない。

従つて今日の農山漁村對策は、かゝる方向に於て嚴乎として存するその目標の實現に向つて講ぜらるべきであり、また農山漁村の實情の調査檢討もかゝる視角に於て行はるべきことは當然である。

二

(一) 農山漁村が先に述べたやうに、十分なる社會的・經濟的な耐抗力を備へてゐないといふ點に於て常に弱い立場に在ることは否定し得ぬ所であり、而もそれが恐慌或は戰爭といふやうな異常時に於て強く現れ來ることも認めなければならぬ。勿論、これが農山漁村民に如何なる形で意識され、また如何なる程度に意識されるかは別問題で、經濟的には強力な因子でありながら、彼等にとつて特に問題とされぬ場合もないとは言へない。それは恰も病人がその自覺症狀のみを問題とするに比せらるべきものであらう。併し意識されると否とに拘らずかゝる社會的・經濟的な耐抗力の薄弱乃至はこれを缺如する所より來る諸因子は農山漁村民を窮乏に導き貧富の懸隔を大ならしめ、従つてまた農山漁村に於ける生産力の低下を來すことは必然である。而して今日に於て、かゝる力が農山漁村の上に働いてゐることは、農山漁村がその組織に於て事變前と特別の變化を來してゐないことから推知し得る所であるが、なほ農山漁村の實情が何よりもこれを實證してゐるといはなければならぬ。勿論、これは先にも述べたやうに、農山漁村民によつて必ずしも意識されてゐるとは限らない。また意識されてゐるとしてもこれが農山漁村民の不平不満として現れるかどうかは別問題である。殊に農山漁村民はこの事變の重大性を認識し御奉公の一念に燃えてゐることは、農山漁村を實際に見る者の深く感知する所で、彼等が不平や苦情などをいふ筈はない。併し文句をいはぬからそれでいゝといふ譯ではなく、また彼等が赤誠に燃えて働いてゐればぬ

る程彼等の勞苦に實を結ばしむるやう指導することこそ重大でなければならぬ。況んや國民食糧の線を守る重大なる役割をもつ農山漁村の經濟的實力を低下せしむることは國家的立場より許し得ぬ所で、それは農山漁村民が我慢するとかどうかいふ問題では決してない。

(二) 而も事變下に於て農山漁村の勞働力の減少は必然で、減少せる勞働力を以てよく生産を確保し、なほこれを増進すべきことが要求される。或る程度の不足の場合に於ては、隣保共助の精神により、勤勞奉仕の如き美舉もなし得る所であり、またかゝる精神かゝる行動が農山漁村の協同生活のために重要なことは何人も認むる所であるが、併しこれに一定の限度のあることもまた認めなければならぬ。若し然りとすれば、限度を越えたる勞働力の不足に對しては、勞働力の補給を何等かの方法で圖るか、不足な勞働力を以てなほ十分に生産を繼續し且つ増進し得る生産組織をとるかその何れかでなければならぬ。併し、前者の場合に於てもその限界性は可なり狭く後者の徹底的なるに若かないであらう。この場合に於ては、勿論、從來の如く單に自己の利益のみを保持しようとする態度を固執し、どこまでも個人主義的な立場を守るならば到底不可能のことで、農山漁村民が飽までも協同主義で國家的立場に於て經營を進めると共に、國家としても、農山漁村の協同化のために必要なる指導と施設をなすことが必要と考へる。

昭和十二年十一月事變勃發直後の農山漁村の實情を視るべく農林省經濟更生部の委嘱を受けて和歌山三重兩縣下を視察したが農村といはず漁村といはず極めて眞剣熱誠で勤勞奉仕の如きも當局者の指導と相俟つてよく行はれてをり、幾多の感激する事例も聞いたが、これは後に報告された所によると全國的な事實であつた。併しそれにも拘らず、私は、この農山漁村の熱烈なる奉公の精神を動力として、これを組織化し經濟的效果を大ならしむるやうな方向に進めて行くことが實際問題として必要であり、

またそれこそ労働力の不足を補ひ生産力を保持する上に重要ではないかといふ點を報告して置いたが、その後一年、事變の進展と共に、私の注意したやうな點が農山漁村に於て實際に問題になつて來てゐる。勿論、農山漁村の人々に勤勞奉仕の精神が高まつても弱まつてゐる事實は斷じてない。併しいろ／＼な關係から、その運営に困難な事情が生じて來たのである。それで、山口縣などに於ては、移動勤勞班を編成し、勤勞奉仕の精神を堅持しつゝ、而も經濟的に組織づけられた形態をとつてゐる。²⁾それによると、「村又は部落に於て一般的に勞力不足し勤勞奉仕及び共同作業を徹底するも尙勞力不足の虞ある地方に於ては農繁期を異にする他の地方と連絡協調し移動勤勞班の活動に依り之が補給調整を圖ること、移動勤勞班の編成及活動方法は概ね左の各項に準據すること

一、移動勤勞班は一班十名を標準とす

二、班の就勞期間は一期を七日間とす、但し相互の協定に依り二期以上に亘るを妨げざること

三、移動勤勞班は非常時の生産力維持擴充に貢獻するを以て本旨とし其の勤勞報酬は一日に付男一圓五十錢、女一圓二十錢を越えざるものとす、但し特別の慣行等ある場合は此の限りにあらず

四、各班に班長を置き、班長は班を代表して一切の事務を處理せしむること

この移動勤勞班の成績は未だ報告されてゐないが、聞く所によると好成績で、勤勞班を編成してゐる青年男女も他村の經濟及び生活より學ぶ所が多く、援助を受けた村はこれらの眞面目なる青年男女の勤勞により多大の便宜を得感謝してゐるといふ。これらの好成績は編成された移動勤勞班の素質のよかつたこと、關係者の熱心なる協力と指導、縣が移動の費用を負擔し且つ指導に當つたこと等がその原因を成してゐるものと見られるが、これを全縣下に組織的に行ふには如何にすればいゝか、また他府縣との間にこれが可能であるかどうか、かうした點に就いて研究の餘地もあり、また移動勤勞班自體が労働力補給のために限界性があり、而もその限界性が可なり狭いものではないかと懸念される。併し、労働に對し一定の報酬を支拂ふこと、縣が斡旋指導して労働力の補給と補整を圖らうとする點に於て組織化され一步を進めてゐるものと見なければならぬ。昨年十二月と本年一月に於て再び農林省經濟更生部の委嘱を受けて静岡、山口兩縣下の二、三の村を視たが、かうした問題は單なる府縣の問題としてのみでなく國家的立場から一定方針を授け、圓滑なる運営に當らしむることが必要であることを痛感した。

(三) 農山漁家にとつて働き手を減少することはそれだけ經營に支障を來し、またそれだけ收入の減少を生ずる

1) 時局對策懇談會記事 (農林省)
2) 最近京都府に於てもかゝる移動的な労働補給の方法をとるやうに傳へられてをり、また各地に於て、組織的ではないが、かゝる方法のとられてゐる例は必ずしも少くない。

ばかりでなく、不足勞働力を補充するために他の勞働者を雇入れるといふやうな場合には支出の増大を來たさざるを得ない³⁾。従つて農山漁家の負擔は増大し、經營が困難となることは必然である。殊に勞働力の減少の傾向に於て賃銀の騰貴は不可避であり⁴⁾、山口縣下の實例によれば、鮮人勞働者が互に申合せ三圓以下の賃銀では農家に雇はれぬといふ事實があり、かくの如きは全く不當の要求であるが、かゝる勞働者を取締る一方、農家の經營に於て雇傭勞働を可及的に避け得る合理的經營が望ましいといはなければならぬ。而してそれは勤勞奉仕或は共同作業以上のものでなければならぬであらう。

(四) 物價の騰貴はまた農山漁家に對し大なる壓力となつてゐる。勿論、農山漁業の生産物もそれ自體として見れば、値上りは著しきものがあり、殊に往年の不況時代に比して見れば農山漁村民を満足せしむるものがあるが、併し、若しその生産手段乃至は生活用品の値上りと比較すればその差は著しきものがある。たゞ農山漁村に於ては消費節約の主旨が可なり徹底してゐるので忍べるだけ忍ぼうとしてをる上に、一部には從來の物で間に合せ得る餘裕もあるので、現在のところでは深刻に感ぜられてゐないやうに見えるが、現に缺狀價格差が大であり而も更に大ならんとする傾向のある以上、今日に於て對策を講じて置く必要がある。特に、先にも述べたやうに、國民食糧としての農山漁獲物は、今後益々價格を下げ國民に十分に供給し得ることを方針としなければならぬにも拘らず、若し生産手段や生活用品の價格が騰貴してゆくのでは到底この目的を満足することは出来ないであらう。この點に就いては、國家總動員法の如きがうまく運用され資本の統制が徹底し、また一方に於て物價の統制が強力に行はれて獨占商品の價格を抑へることが重要とならう。殊に肥料の問題の如きは今日に於て徹底的に解

- 3) 東北地方の一例として「軍需工業に動員せられたる農村の勞働力に關する調査」勞働科學研究第16卷第1號參照
4) 工場が新設される結果、その附近の農村漁村に於て勞働力の奪はれることが多いはかりでなく、賃銀の騰貴を招來してゐる。而して町村の有力者は工場の誘致による町村の收入増加、繁榮策と考へ、農業漁業に於ける生産力の確

決することが必要である。

併しまた一方、農山漁村自體がこれに對應し、物價の騰貴傾向に於てこれを處置し得る力を備へなければならぬ。産業組合の如きは一昨年事變動勃發時に於て今日あることは豫想されたのであるから當然に必要な處置と將來に對する計畫をなすべきであつたにも拘らず有效適切な處置を見なかつたのは甚だ遺憾である。若しこれが出來ないとすれば、一體産業組合といふのは如何なる意味に於て農山漁村の經濟更生に役立つのであるか、また何のために産業組合未設置町村の解消が必要であつたのか甚だ疑はしいと思ふ。併しこれは、産業組合當事者の怠慢といふより寧ろ今日の産業組合の機構と機能並にその經營方法では、農山漁村に社會的・經濟的抵抗力を賦與するといふ意味に於ける經濟更生は十分に出來ないのではあるまいか。これは私が經濟更生運動の起つた昭和七年の當時から注意したことであるが、今日の經濟情勢に對處してなす所の産業組合の活動を見ると必ずしも杞憂でなかつたと思はれる。この時局下に於ける産業組合としては眞に農村の協同組合としての使命をはたすべく檢討を要する問題があらう。

この點に就いては、いはゆる經濟更生事業それ自身も再吟味を要する。成程、經濟更生計畫の樹立實行により方途に迷つてゐた農山漁村はそこに光明を見出す事が出來た。またこの光明により農山漁村民の精神及び經濟生活に與へた力は決して過小評價してはならないが、併し社會的・經濟的抵抗力を賦與する點では殆ど效果を示してゐないばかりでなく、その行はれる事業なるものが極めて形式的で必ずしも町村の實情に即さず、また適切な方法手段がとられてゐないといふ憾みがある。これは要するに指導の不十分によるものだが、今日の經濟更生の事業を

保などは無視してゐる傾向がある。

5) 拙稿「最近に於ける物價の動向」神戸市産業課産業研究資料第八輯昭和12年8月

行ふ組織では多くを望めないことゝ考へる。この點に就いては曾ても注意した所であるからこゝには述べない。⁶⁾

(五) 最後に事變の進行發展に伴ひ農山漁村に於て使用する物資の不足乃至は統制に伴ふ供給或は配給の不圓滑なることが農山漁村の經濟及び生活を壓迫してゐることである。勿論今日のところでは、從來使用せる物で間に合せてゐる部分も未だ多いので實際には農山漁村民が甚だしく苦痛としてゐるといふ所までは至つてゐないやうであるが、品不足と價格の騰貴は顯著に現れてゐる。また物資の統制がそれ自身必要なることは知られてゐても、今日の統制の仕方にて、果して今後農山漁村の必要とする物資が入手出来るかどうか非常に不安に感ぜられてゐる。殊に五、六の物資に就いては、既に配給が圓滑に行かず、一部ではこれが統制の性質と誤解してゐる者さへある。併し統制が國民經濟力の發展を目的とする限りに於て生産手段たる諸物資に事缺かしむる筈はなく、要は統制下に於ける配給機構と配給方法の不備に原因があることは明瞭で、殊に農山漁村に於ける所要物資とその數量を調査しこれを中央の統制機關に要求する機關もなければ、またその配給を受けて農山漁村の内部に適切に分配配給する機關もないといふことは物資の統制を不圓滑ならしむる根本原因といはなければならぬ。若し組合統制が完備されてゐるならば、産業組合なり、漁業組合なり、各個組合がその分野に於て被統制者の代表機關として活動し得る筈である。ところが、これらの組合の能力は制度的にはどうあつても現實に機能し得る所は甚だ不十分であり而も他の勢力に押へられて不十分な機能が更に不十分にされてゐる感がある。勿論、今日の統制は機構に於て整備されず、またその方法に於て必ずしも適切であるとは斷言し得ないが、若し單位を成す町村に於ける經濟團體が統制に對し十分なる機能を發揮し得るならば、それらの缺陷は可なり是正され得るものと考へる。

6) 拙稿「經濟更生論」經濟論叢昭和11年3月、同「統制經濟と農山漁村對策」同誌昭和12年7月

殊に農山漁村に於ける統制に對する不安不滿の如きは解消一掃されるであらう。

農山漁村を實際に視察して見て多くの問題に遭遇するが、併しそれらは何れも右の五個の問題の何れかであるか、或はその派生的な問題に他ならぬ。従つてまた農山漁村民が意識し要望する所もこの範圍を出るものではない。ゆゑに農山漁村對策としては、先づ今日の時局下に於て農山漁村の役割使命を十分に達成せしめ得る對策を根本とし、その對策の方向に於て農山漁村に於ける切實なる問題の解決より進むべきであらう。その意味に於て今日最も必要とされることは、農山漁村の徹底的な協同化である。以上の五點を満足する方策は歸する所農山漁村に於てその生産的地盤に適應する協同組合を組織し、協同組合をして農山漁村の時局的役割を十分に遂行せしむると共に、經濟統制の圓滑なる施行を得せしむる被統制者の代表機關でありまた統制遂行の第一線の機關たらしむることによつてのみ得られると考へられる。勿論これがためには農山漁村の協同化を妨げる諸條件を排除することが必要であるが、それには國家總動員法の運用は最も有効であらう。ゆゑに、今日に於ては、農山漁村の協同化乃至は組合統制⁷⁾はこれを行はんとすれば行ひ得る條件が具備されてをり、而も時局は最もこれを必要としてゐるのである。而してこれを實際に行ふに當つては、既に組合の設置は行はれてをり、また一定範圍の活動をしてゐるのであるから、問題は、各種組合の協同組合的機能を擴充し指導方針を與へて合理的經營とその活動を指導すると共にその阻害因の排除に努めればいゝ譯である。私はこれこそ農山漁村の長期經濟戰的編成であると考へてゐる。而して各個の具體策は農山漁村それ／＼の實情に即して行はるべきであるが、かゝる基礎地盤なくしては、如何なる方策施設も一時的効果か或は氣休め以上の作用をもつものではない。

7) 拙稿「組合統制と産業組合の問題」(第二回産業組合問題研究會報告書昭和11年5月)に於て私の主張したことは今や正に強力に行はるべきではないか。

三

以上は農山漁村を通じての問題を見たのであるが、農村山村漁村は何れも異なる生産的地盤と條件の下に存在してゐるから、實際的な具體的な對策は右の一般的對策の下に於て特殊化されねばならぬ。殊に漁村の如きは、農村と異なり、從來の政策に於ても多くの場合看過されてをり、村民の文化程度も低く、經濟その他の施設も不十分で今日の時局に對應しその役割を十分に果し得るだけの能力をもつものとは考へられない。而も昭和五年の恐慌の打撃は最も深刻でありながら、經濟更生の部面に於ては殆ど見るべき事業が行はれてゐないといふ實情に在る。従つて事變下に在つて最も弾力性を缺くものは漁村であるといはなければならぬ。

殊に漁村に於ては次に掲げるやうな惡條件が競合累積してゐることを注意しなければならぬ。

(一) 沿岸漁場の自然的生産力は從來衰退の傾向が顯著である。而も自然的生産力の保護涵養の方策施設は甚だ不十分である。従つて漁獲數量は一般的に遞下してゐる⁸⁾。更に最近の工業の發達による汚水の流入、沿岸の埋立等による漁場の被害は大であるが、これに對し根本的な對策は樹立されてゐない⁹⁾。また沖合或は遠洋の漁業に於ては、漁場は益々遠ざかる傾向をもつてゐる。勿論これは沿岸漁場の荒廢と關聯してゐることである。従つてその結果として大型の漁船とこれに必要な裝備並に燃料油等の漁撈手段を多く要し、また特殊の技術者と多くの勞働力を必要とすることも言を俟たぬ。然るにこれが經營は多く從來の型をとり、合理的な經營組織と方法によるものが少いために、經濟情勢に對する適應力を缺きその基礎が脆弱である。

(二) 漁村に於ける漁業者の大部分が經濟的に弱小生産者であるにも拘らず、これが社會的・經濟的耐抗力を備

8) 正確な統計は得られないが、各地方の漁獲高と魚價の値上り關係を見ると數量的増加は見られない。また漁村民は常に漁獲量の減少を訴へてゐる。
9) 工業經營者は窮乏せる漁村民を相手とし、一時的な涙金により問題を解決しようとし、少しも水界の生産力の保持を國家的な立場より考へない。この點注意を要する。

へるに必要な組織は甚だ不十分である。漁業組合はこれがために十分なる活動を期待される譯であるが、漁村民の意識の低いこと、自然的諸條件克服の技術の未發達並に組合指導の不徹底不十分なること等によりその機能を發揮出来ない状態に在る。

(三) 従つて事變下に於ける經濟情勢に適應して漁村を維持してゆくことが困難である。即ち、

(1) 勞働力の減少に對し、これが對策を講ずることが出来ないでゐる。漁撈そのものの技術的性質上、勤勞奉仕とか共同作業とかいふやうな勞働力の補給方法は多くの場合とり得ぬ所である。例へば三人乗組の漁船に於てその一人を失ふとすれば二人で操業を繼續するか、若しそれが不可能とすれば他の二人はその漁業を中止する他はない。漁業の實際に於て不足の一人を他より補給するとか、或は他の二人が別の漁船に乘組むといふやうなことが從來の經營の仕方では困難である。また可能の場合に於ても勞働力の補給が殆ど不可能に近いといはなければならぬ。蓋し漁業は特殊の技術的なもので地方により漁場により異なるばかりでなく特別なる協力が必要とするからである。従つて勞働力の減少はそれだけ漁獲高を低からしむると同時に、働き手を失つた漁家は直ちに收入の道を絶たれる。一方から考へれば、狭い漁場に多くの漁業者が操業してゐる沿岸漁業に於て、漁業者の或程度の減少は漁場の自然的生産力の涵養と漁業の健全なる發達のために望ましいことでもあるが、直ちにこれが漁場の自然的生産力の涵養に寄與するかどうか問題であるばかりでなく、働き手を失つた漁家が生活の道を絶たれることを考へねばならぬ。遠洋漁業や沿岸の大規模な網漁業の或ものに於ては、應召者にも一人前或は半人前を分配する方法をとつてゐるものもあるが小漁業では殆ど不可能のことである。¹⁰⁾

10) 漁業組合員が水揚げの一定割合を據出してゐる例は少くない。

(2) 漁村は農村と異なり殆ど自給部分がない。従つて物價の騰貴は直ちに漁村の經濟及び生活を壓迫する。今日のところでは漁村民は從來漁獲物の値下りを悩みとしてゐたに對し、二割乃至四割の値上りとなつてゐるので収入の増加を喜んでゐる状態であるが、その生活用品並に漁撈手段の値上りが五割乃至十割以上に及んでゐる事實を見るならば決して實質的収入は増加してゐないのである。このことは今後深刻に感ぜられることと思ふが、これに對處する方法は何等考へられてゐないしまた現在の漁業組合の實力ではこれを切抜け得るものではない。

(3) 漁撈手段は何れも今日統制下に在る物資であるが、これが漁村に圓滑に配給され漁業に障害を生じないといふやうな組織は今日の漁村には出来てゐない。漁業者は一定時期に一年間の漁業用物資を調達用意するといふのではなく漁期の迫ると共に漸くその準備にかゝる状態であり、また資力的にもさうするより他はないのであるから、物資の統制に適應し支障なく漁業を行ふことは今後決して容易ではなからうと思はれる。また漁業用物資の不足のものに就いては代用品も考へられるが、漁場の状態例へば海水の透明度、潮流の速さ、魚族の洄游乃至棲息の深度等によりまた漁法の如何により種々なる技術的制限があり一率になし得ぬ場合がある。従つて地方的な要求を十分に現し得る機關がなければ、假に代用品が補給されたところで、漁業生産は遞下せざるを得ないであらう。

かくの如く漁村には漁村の特殊事情があり而もこれらの特殊事情は漁村をして今日の情勢の下でその適應性彈力性を缺かしむる惡條件として作用することは上述の如くである。併し水産業の時局的役割は決して輕視すべきものではなく、またこの役割を擔當するものは専ら漁村であるといふ意味に於て、¹¹⁾これらの惡條件を克服し漁村

の經濟及び生活を維持安定せしめその使命を實現せしむる所の漁村對策は重要であり、また是非とも確立せる漁村對策の下でこれが實現を企圖しなければならぬ。

既に述べたやうに、農山漁村一般に通ずる根本對策としてこれが協同化を圖ることが重要であり、その意味に於て、漁村に於ては漁村協同組合の強固なる組織こそ最も必要なことで、年來私の主張する所である。而して今日の制度に於ては、これは「漁業協同組合」として認められる所であるが、漁業協同組合をして十分に活動せしめ前述の惡條件の克服に當らしむることこそ當面の對策の根本でなければならぬ。

現在のところでは、從來の漁業組合が漁業協同組合として改組されつゝあること、府縣の聯合會、全國聯合會が組織されたことにより形式的な協同組合化を見たが、實質的には殆ど協同組合らしいものを有つてゐない實情である。第一に組合員の自覺が低く、眞に協同組合により漁業を守らうとする意識が甚だ不十分である。この點に於ては古い歴史をもつ産業組合に於ても必ずしも十分とはいへないであらうが、漁業組合の場合に於てはそれが著しいばかりでなく而も最も協同精神を必要とするのが漁業それ自體の特質なのである。然るに漁業組合の場合に於ては、一部のものに於ては組合内部に於て或は組合と組合とに於て對立抗爭が行はれてゐる。その原因は種々あらうが、主たるものは、漁場關係の紛爭乃至は漁業の衝突である。¹²⁾従つて、これらの問題を解決せぬ限り、組合員及び組合相互に於ける協力といふことは望み得ぬ所である。勿論その解決は容易ではなからうが、漁場が狹隘であること、漁業權制度に缺陷のあること、漁業取締に於ける矛盾並に往々にして實際に適合せぬものゝあること、等々に就いて考慮する所があれば、漁業者間に於ける摩擦衝突を防ぎ得る筈である。而して漁村民

12) 静岡縣の某村、山口縣の某村に於ては、自然的條件に恵まれてゐながら、漁業の衝突のため組合經營が圓滑にゆかず漁村としてもつ能力を發揮し得ないでゐる。かかる例は沿岸各地に極めて多い。

或は漁業組合員の漁業に於ける協同精神の教育訓練が常に必要なることは言を俟たぬ。

第二に、今日の漁業組合に於ては、漁業協同組合としての組織機能が規定されてゐながら合理的經營が十分に行はれる所まで行つてゐない。それは前記の第一の事情にも大いに原因してゐるが、かゝる方向に徹底的に指導されぬことにもよるものと考へられる。漁業組合の指導といふことは常に唱へられてゐるが、今日まで何等指導方針が示されたことがない。全國漁業組合聯合會の如きはその指導部に於て一體何を指導しようとするか、商業的活動より先づこれを確立すべきである。蓋し購買事業にせよ販賣事業にせよ組合の指導精神なくしてこれを行ふならば單なる商業的活動以上の何物でもないからである。

第三に漁業組合に對する國家の保護指導監督も十分ではない。漁業組合をして眞に漁村協同組合として發達せしむる方針であるならば、それに必要な方策と施設とをなすべきである。協同組合の存立生長は國家の力なくして可能なものでは決してない。この點に就いて漁村對策は未だ十分に國策中に含まれてゐるとは考へられない。而も漁業に於ける生産力の保持増進を期待することは、先に述べた所からも明らかなるが如く、先づ不可能のことといはなければならぬ。

以上に述べた意味に於て、今日の漁村對策としての急務は、前記の不十分な點を補つて漁業組合をして眞に漁村協同組合として機能せしむることである。而して、かゝる漁業組合をして、先に述べた漁村に於ける惡條件克服のために活動せしむることが必要である。その方法は、恐らく漁業組合をして自ら漁業を經營せしめ漁業生産を直接的に統制せしむる他には道はないであらう。この場合、組合は組合に屬する漁業權の下で生産計畫を立て

勞働力を適當に分配し、物資の統制に對應しつゝ漁業生産を高め且つ組合員及び家族の生活の安定を保持して行くことが出来るであらう。而してこのことは、現在の組合の能力といふものを一應度外視すれば農業の場合と異なり寧ろ容易である。たゞ問題は、漁業組合の現状並にその能力に於て可能性があるかどうかであるが、今日の時局に於てこれを疑つて躊躇することは許されぬ。不安があり懸念があるならばそれを一掃する方法をとつてこれを實行しなければならぬ。而もこれは、國家の強力なる指導と監督により十分に實行し得る性質のものである。かく言へば、今日の時局に際し、或はこの時局に刺戟されて、漁業組合に就いて何か革新的な經營を要求するかに聞えるかも知れないが、漁業組合がその生産的地盤たる漁業そのものに適應した協同組合であり、また漁業者の今日の經濟的地位を考へる限りに於て、漁業組合の經營は本來かくなければならぬ性質のものであつて、これは私が既に時局が今日に至らぬ先に論じた所である¹³⁾。而して漁業法の改正を叫び漁業組合制度の改善を要求したのも漁業組合をして眞に漁村協同組合たらしむると共によく非常時に對應して漁業の發展と漁村の維持を可能ならしむることを望んだからに他ならない¹⁴⁾。周知の如くこの要望は幾分達せられまた實現されたが、併しそれは幾分であつた。といふのは、制度的形式的に改善されたが、未だこれを活用するに至らず、活用するに就いても十分な徹底した指導方針を缺いてゐるのが現状である。

ゆゑに私は、こゝに何も新しいことを要求するのでは決してない。また今日の漁業組合制度に於て無理を強ふるのも勿論ない。望む所は、今日の時局を十分に認識し、漁業及び漁村の役割使命をはつきり意識し、その下で漁業組合を指導しこれを活用せしめよといふのである。これをしも躊躇するならば、もはや漁業や漁村を問題にしない方がいゝであらう。

13) 拙稿「漁業組合の經營」經濟論叢昭和8年4月
14) 拙著、漁村問題と其對策、同、漁村の更生と漁村の指導